

多機能事業所 (就労移行支援) (自立訓練/生活訓練)  
わかたけ社会センター

かしら  
柏うお〜か〜  
あいネットが気になる街の事業所にお邪魔します。

高柳駅(東武野田線)から歩いて20分ぐらいのところにはわかたけ社会センターがあります。駅からマイクロバスも運行しています。今回は、施設長の外山さん、主任生活支援員の山田さん、石川さんにお話を伺いました。

どんなところですか？

わかたけでは障害を持つ人たちに食品加工、養鶏・農耕、織物など、様々な技術を得る場所を提供することにより、就労を支援する施設です。食品加工部門では千葉県産の農産物を材料に、ジャムや味噌を生産しています。苺ジャムは、提携している農家へ苺を摘みに行く所から始まります。養鶏班では、ひよこから育てた鶏が産んだ卵を、拭いたりパック詰め等をしています。農耕班では、さつま芋、里芋、ジャガイモを収穫しています。配達班は、毎週火曜日と木曜日にわかたけで収穫した卵、野菜を宅配しています。また、沼南道の駅や近隣のスーパーにわかたけの製品を納品に行っています。また、連携先企業内で支援職員の下に施設外実習をしています。(就労移行支援事業利用の方) ※月に1回、レクリエーションとして、外出プログラムがあります。(先月はつくば山に行ったそうです)。

どんな方が対象ですか？

主に知的障害の方を対象としています。利用の際は市役所、障害福祉課に相談して「受給者証」を発行して頂きます。現在は男女比、9:1の割合で利用者が利用しています。習志野市や船橋市等、市外から通っている方もいらっしゃいます。

わかたけは地域の方々との関わりの中で、農耕用の土地を無償で借りたり、ジャム用の苺をいちご農家から分けてもらったりしているとの事。地域に根差した施設だと改めて感じました。「あかとう味噌」をいただきましたが、風味が豊かでとてもおいしかったです。

わかたけは他にも「たけのこ」(生活介護 就労継続B型事業所)グループホーム、わかたけさぽーと(障害者相談事業)の事業を実施しています。



お問合せ下さ



◇◇ご相談・お問合せ◇◇

社会福祉法人高柳福祉会  
わかたけ社会センター

住所：柏市高柳 668-1

電話：04-7192-0324



「じんけん」ぽん  
(2013.5 / NO.109)



〔発行〕 社会福祉法人 生活クラブ  
柏市地域生活支援センター あいネット  
〒277-0004 柏市柏下 65-1 ウェルネス柏内  
TEL04-7165-8707 FAX04-7165-8709  
HP: <http://ai-net.a.la9.jp/>  
e-mail: [ainet@kazenomura.jp](mailto:ainet@kazenomura.jp)

中核地域生活支援センター  
連絡協議会総会・定例会開催



4月23日、標記の総会が行われました。中核事業は単年度事業で毎年公募であり、当初はいくつかの中核の委託先の変更がありましたが、この間には変化なく、25年度も法人の変更はありません。

県の委託だけでなく、同様の相談事業を行っているところとして、あいネットのように県から市への委託と変わったところや、船橋市の障害者相談の「ふらっと船橋」、船橋市の保健と福祉の総合相談窓口「さーくる」が準会員として加入しています。

国では生活困窮者自立促進支援モデル事業の募集が始まっています。この事業は先だっで行われた国のモデル事業「パーソナルサポートサービス事業(3年間)」が終了し、本人の状態に応じた包括的な相談支援が必要との社会福祉審議会の報告書を踏まえ、生活困窮者に対する多様なサービスを包括的・個別的・継続的に提供するものです。あいネットでも24年度の1年間このモデル事業を行いました。

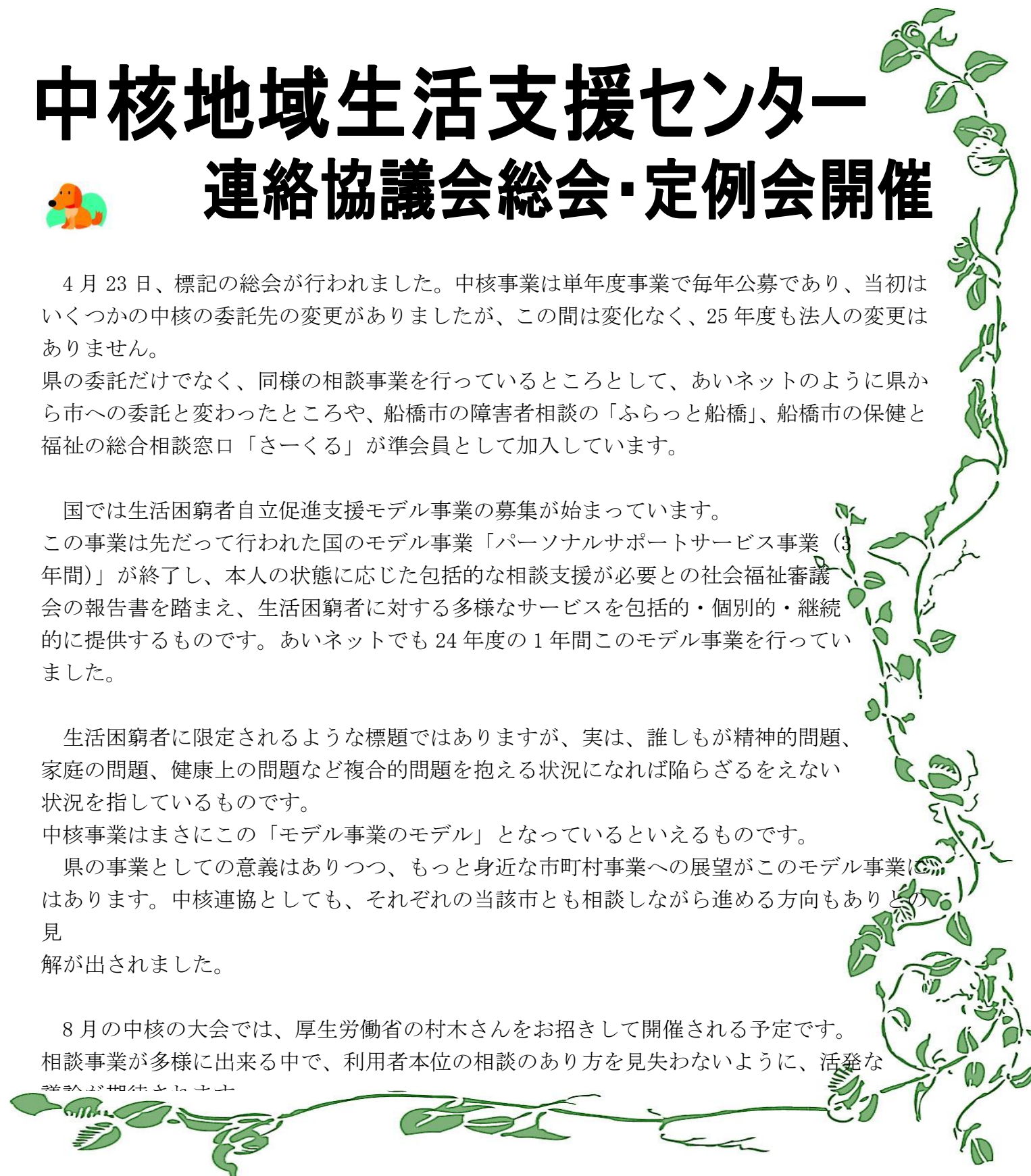
生活困窮者に限定されるような標題ではありますが、実は、誰しもが精神的問題、家庭の問題、健康上の問題など複合的問題を抱える状況になれば陥らざるをえない状況を指しているものです。

中核事業はまさにこの「モデル事業のモデル」となっているといえるものです。

県の事業としての意義はありつつ、もっと身近な市町村事業への展望がこのモデル事業にはあります。中核連協としても、それぞれの当該市とも相談しながら進める方向もあり、見解が出されました。

8月の中核の大会では、厚生労働省の村木さんをお招きして開催される予定です。相談事業が多様出来る中で、利用者本位の相談のあり方を見失わないように、活発な

議論が期待されています。



# DV・児童虐待相談新任職員研修 ～DVと児童虐待の関係性～



4月23日に、DV・児童虐待相談新任職員研修に参加しました。

この研修は、DV・児童虐待の基礎知識や初期の相談対応方法等について、ロールプレイを取り入れた実践的な研修を行い、早期に適切な支援・対応方法を身につけるための研修です。

DVの実態調査として内閣府調査結果では、4人に1人は配偶者から被害を受けたことがあり、女性の3人に1人は被害を受けたことがあり、約10人に1人は何度も受けていることがわかりました。しかしながら、実際に相談する方は半数程度ということでした。また、DVの子供に与える影響として、子どもが暴力に巻き込まれて身体的なケガをする、子どもがネグレクトの被害に遭う、暴力を振るわれた母親が子どもを虐待すると言ったような、直接的に子どもに危害がある場合。さらに成長過程における影響として、友人に対して攻撃的な態度を取ることが多い、問題行動・多動・不安・自分の殻に閉じこもる・学習困難がみられる、暴力を感情表現や問題解決の手段として学習する等があるとされており、DVと児童虐待の関係性の説明がありました。

信頼関係を築く相談の方法の研修では、ちば女性と子どものサポートセンター代表で臨床心理士の有馬和子氏による、ロールプレイによる信頼できる相談の聞き方や、相談に来た子どもへの対応の仕方等のお話がありました。参加者がそれぞれの役になりきっての熱演がみられ、盛り上がりました。また、相談者がせっかく相談したのにと感じる2次被害の実例から信頼できない相談員の説明もありました。

DV・児童虐待と一見別問題の相談から、支援者が相談者に対し信頼できる対応見につながるような話の聞き方を心がけなければいけないと思いました。



**お知らせ** ◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット (電話：04-7165-8707 FAX：04-7165-8709)

講演名	日時	場所	費用	申込	問合せ先他
<シンポジウム> 受刑者の社会復帰を阻む高い壁 社会復帰のために、仕事、住まい、そして…	平成25年 6/1(土) 14:00~17:00	青山学院大 学青山キャンパス 6号館	会員/ 学生/ 25歳以下 500円 一般 1000円	不要	<主催> NPO法人監獄人権センター Tel/fax:03-5379-5055 mail:cpr@cpr.jca.apc.org

※「普通に生きる」上映会のご案内を同封いたしました。ぜひご活用ください。

## あいネット発

# 出前講座あります!



現在入院中の患者さんが、退院に向けて、地域生活でどんなサービスが受けられるか話してほしいという依頼があり、病院に伺ってご本人たちと一緒に話をしてきました。

障害をお持ちの方が、近い将来は家族と離れて生活するとしたら?あるいは、入院中の方が退院して地域で生活するとしたら?どんな場所、どんなことが必要で、どんなサービスが使えるか、どんなことに気をつけたいか、など話してほしいというご依頼は時々あり、病院や施設等に伺っています。

今回は入院中の4人の方とお茶を飲みながらのくつろいだお話となりました。

まずはあいネットより、暮す場所の話、生活のいろいろな場面で使えるサービスのことなどを説明。その中で何よりも心強い相談相手となる相談支援専門員さんのこと。介護保険が先行しているのでケアマネというイメージしやすいところもありますが、当事者の方はピンとこない様子。説明だけでは無理ありません。退院の目途が立ったら、入院中から相談に乗ってくれるので、一人で考えなくても大丈夫ですよという説明で、少し心強く思えたとの感想がありました。

病院のスタッフの方は制度はよくわからなかったのよかったとの感想があり、

**あいネットでは、福祉の制度やあいネットの支援について…など、あいネット出前講座を積極的に行っています!**  
過去にも福祉の専門職、当事者や家族会、民生委員の方などの前でお話しする機会を頂いていますが、今後も様々な分野の方と情報交換ができればと考えております。興味のある方は、お気軽にご相談下さい!!



## ～編集後記～

ゴールデンウィークが終わりました。忙しかったですが充実したGWでした。あっ今月結婚します。苗字は変わりません(笑)

